

## 平成 25 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ぶどう品種「エーデルロツソ」の花穂整形方法と適正着果量	
[要約] ぶどう品種「エーデルロツソ」の花穂整形は、開花始期に副穂を除去し花穂長を9cm以上にする。花穂の先端は切り詰めない。適正着果量は1葉当たり13g程度である。				
キーワード	エーデルロツソ	花穂整形方法	適正着果量	技術部 果樹研究室

### 1 背景とねらい

本県育成のぶどう品種「エーデルロツソ」は、9月中下旬に成熟する赤色品種であり、耐寒性が優れ、食味が良好であるため平成22年に県の奨励品種とした。しかし、安定生産に向けた花穂整形方法や適正着果量等の栽培法については一部未解明である。そこで、「エーデルロツソ」の花穂整形方法、適正着果量を明らかにする。

### 2 成果の内容

- (1) 花穂の整形においては、開花始期(副穂の開花が始まった頃)に副穂を除去し、花穂の長さを9cm以上にする。なお、花穂先端は切り詰めず果房が円筒形になるようにする(表1、図1、2)。
- (2) 結果母枝第1～3節位では副穂除去により花穂の長さが9cm以下になる場合があるため、芽かきや空枝の対象とする(表2)。
- (3) 着果量は1葉当たり13g程度が適する。1葉当たり23g程度では果実の糖度が低く、着色不良となる(表3、図3)。1葉当たり15g程度では果実品質は良好だが、新梢の登熟率が低く、結果母枝として利用できない新梢が多くなる(表3、4、図3)。

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) 花振るい防止のため開花期に摘心を行う。
- (2) 樹勢は中程度で落ち着きやすいが、着果過多になると樹勢が弱ることがあるため、芽かき、施肥、剪定等の管理により樹勢を適正に保つ。また、着果過多は凍霜害を助長することからも適正着果量を厳守する。
- (3) 試験樹は長梢せん定樹を使用している。

### 4 成果の活用方法等

#### (1) 適用地帯又は対象者等

県内ぶどう生産地帯、農業改良普及センターなど指導機関

#### (2) 期待する活用効果

- ア 「エーデルロツソ」の房重や糖度などの品質が良好な果実の生産が図られる。
- イ ぶどう産地の活性化につながる。

### 5 当該事項に係る試験研究課題

- (H23-04) ぶどうオリジナル品種の安定生産技術の確立  
(1000) 高品質果実生産方法の確立

### 6 研究担当者

田口礼人

### 7 参考資料・文献

- (1) 平成21年度岩手県農業研究センター試験研究成果「品種 ぶどう 耐寒性が強く食味良好な赤色品種「岩手3号」」
- (2) 大迫試験地：平成8年度指導上の参考事項「ぶどう「紅伊豆」の収量構成要素」
- (3) 平成23～25年度 岩手県農業研究センター技術部果樹研究室試験成績書(一部未定稿)

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 花穂長別の果実品質（2012年、2013年の平均値）

試験区	房重 (g)	粒重 (g)	果房長 (cm)	着粒数 (粒)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	含核数 (個)	果房形
花穂9cm以上区 (副穂のみ除去)	264	10.0	14.0	25.8	20.2	0.41	1.4	円筒
花穂9cm房先除去区	251	10.0	12.8	25.4	20.3	0.43	1.3	円錐
花穂7cm房先除去区	231	10.2	11.8	24.3	20.1	0.45	1.4	球～円錐

※各区とも開花始期に花穂を整形した。

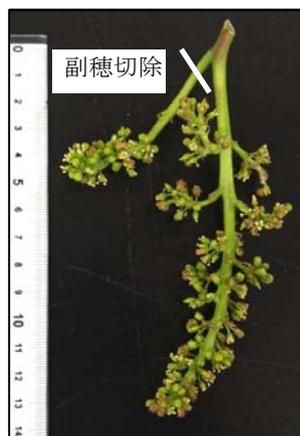


図1 花穂の整形方法



図2 花穂整形方法別の房の形状

(左：7cm先端切除区、右：副穂切除区)

表2 節位別の花穂長  
(2012年、2013年の平均値)

節位 (節)	花穂長 (cm)
1	8.8
2	9.5
3	11.7
4	13.2
5	13.5
6	14.6
7	14.4

※開花始期の副穂から花穂先端までの長さ。

表3 着果量別の果実品質（2012年、2013年の平均値）

試験区	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	含核数 (個)
12～13g/1葉	255	9.9	19.6	0.45	1.4
15～16g/1葉	231	10.5	19.1	0.44	1.4
22～24g/1葉	277	10.7	17.2	0.46	1.5

※各区とも開花始期に花穂を9cmに整形し、7月中旬に着果量を調節した。

試験区の概要

12～13g/1葉：0.75房/1新梢  
15～16g/1葉：1.0房/1新梢  
22～24g/1葉：1.25房/1新梢

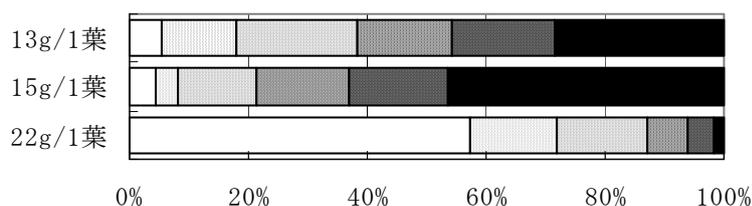


図3 着果量別の着色程度別果粒割合（2013年）

□～0403 着色不良  
□0404 薄い  
□0405 ↑  
■0406 赤色  
■0407 ↓  
■0408～ 濃い

※日本園芸植物標準色票を用い果頂部を測定した。

表4 着果量別のLAI、最終新梢長及び新梢登熟率（2013年）

試験区	LAI	最終新梢長 (cm)	節数 (節)	新梢登熟率 (%)
13g/1葉	1.3	137.7	23.0	67.6
15g/1葉	1.0	112.1	20.8	51.6
22g/1葉	0.9	91.4	17.4	49.5

※調査日：葉面積指数（LAI）9月23日、新梢長10月29日

※葉面積指数（LAI）＝葉面積×新梢本数/面積、葉面積＝20.4×新梢長＋36.8